

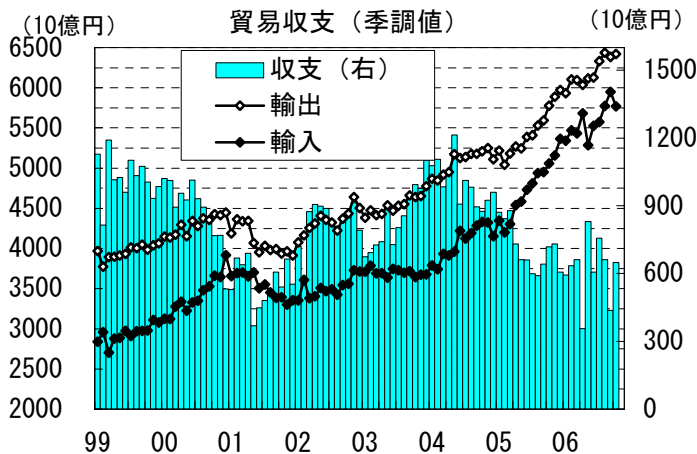
Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2006年10月)
 ~輸出は緩やかに減速~

発表日2006年11月22日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭
 TEL : 03-5221-4525



(出所: 貿易統計・財務省)

(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
05年10月	718	5776	5058	818
11月	731	5891	5160	594
12月	606	5971	5365	908
06年1月	593	5934	5340	-354
2月	634	6104	5470	947
3月	662	6095	5433	968
4月	357	6038	5681	650
5月	831	6117	5287	381
6月	606	6131	5525	805
7月	757	6331	5574	858
8月	661	6435	5774	195
9月	438	6386	5948	1011
10月	649	6419	5771	615

(出所: 貿易統計・財務省)
 (前年比、%)

	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
05年10月	8.0	5.5	2.4	3.8	▲ 1.7	▲ 1.4	17.9	15.3	2.3	▲ 13.9	0.5	7.3
11月	14.7	7.6	6.6	4.7	▲ 0.7	4.3	16.7	19.3	▲ 2.1	▲ 2.3	▲ 1.0	0.3
12月	17.5	10.6	6.2	6.4	▲ 1.9	3.4	27.4	24.8	2.1	10.8	▲ 1.2	3.8
06年1月	13.5	5.6	7.5	12.2	4.4	▲ 1.1	27.0	18.7	6.9	2.6	0.2	10.0
2月	20.7	5.3	14.6	8.5	1.6	15.9	30.3	23.7	5.4	6.9	5.7	3.9
3月	18.0	6.2	11.1	8.0	5.7	12.1	25.3	20.3	4.2	▲ 7.0	0.6	8.0
4月	11.3	4.7	6.3	8.7	▲ 0.2	6.7	20.2	14.7	4.8	▲ 15.2	▲ 2.1	11.2
5月	18.9	6.6	11.6	15.1	8.1	15.2	18.0	13.1	4.4	5.4	2.8	9.1
6月	14.5	5.3	8.7	2.5	9.3	8.0	18.3	13.4	4.3	▲ 0.2	▲ 3.8	9.5
7月	14.2	7.8	5.9	8.9	1.1	6.5	16.9	12.3	4.0	▲ 6.2	2.2	10.9
8月	17.6	5.0	12.0	13.0	6.9	10.5	16.2	13.7	2.2	6.3	2.8	4.4
9月	15.3	7.2	7.5	7.5	7.1	13.1	16.9	14.1	2.5	2.7	▲ 2.3	7.5
10月	11.6	9.2	2.2	10.4	▲ 2.2	7.3	17.4	8.8	7.9	19.5	4.7	12.2

○ 10月の貿易黒字額は前年比▲24.8%と3ヵ月ぶりに減少

10月の貿易収支は6147億円(原数値)、前年比▲24.8%となった。輸入金額は液化天然ガスや非鉄金属等が増加し、前年比+17.4%(前月同+16.9%)と前月から伸びが拡大した。原油価格の下落によって原油および粗油の輸入が大幅に鈍化したものの、国内景気の回復が続いていることから輸入数量の増加ペースが拡大したことが要因である。なお、10月は液化天然ガスの輸入金額の押し上げも大きい、これは一部の原子力発電所の停止に伴って火力発電用に輸入が増えた模様であり、一時的なものと考えられる。一方、輸出金額は自動車、鉄鋼等が増加したものの、前年比+11.6%(前月同+15.3%)と前月から伸びが縮小したため、貿易黒字額は3ヵ月ぶりに前年を下回った。

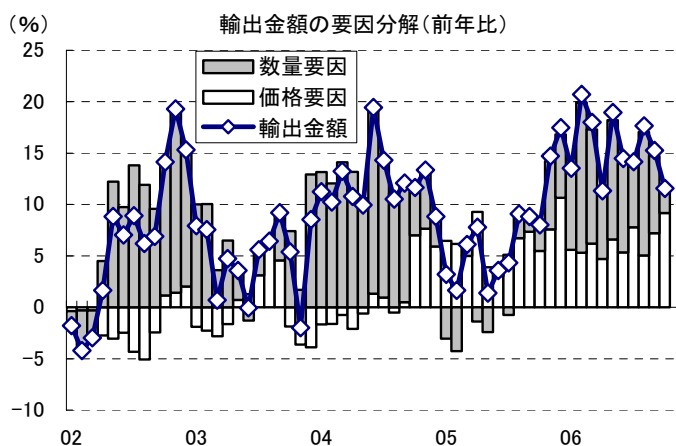
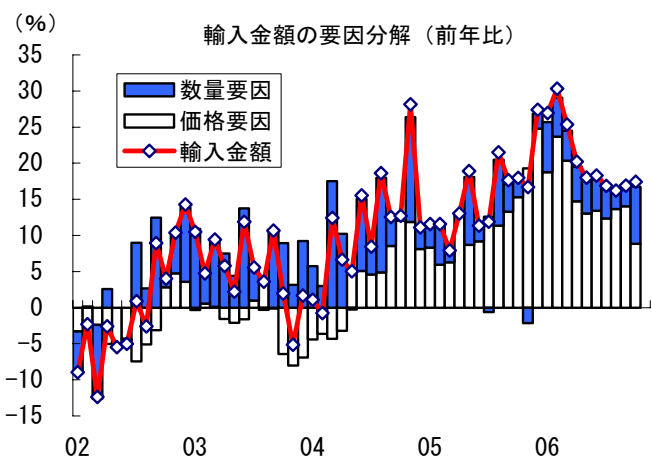
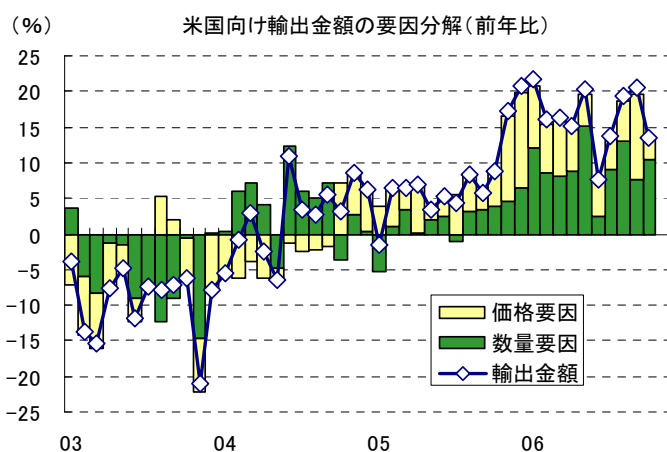
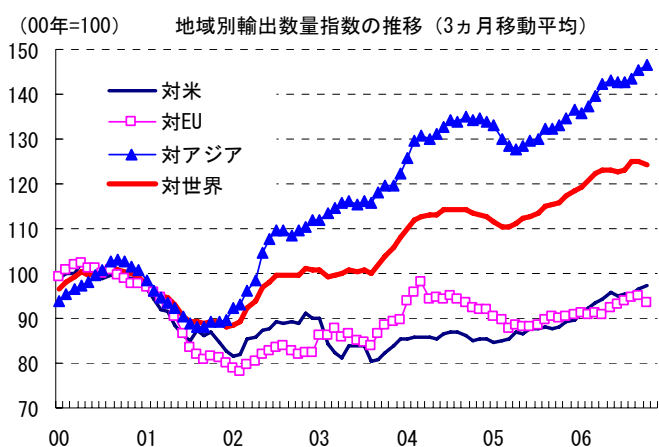
○ 輸出数量は伸びが大幅鈍化も米国向けは堅調

輸出を数量ベースで見ると、前年比+2.2%(前月同+7.5%)となった。地域別にみると、米国向け

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

(同+10.4%←前月同+7.5%)は伸びが拡大したものの、アジア向け(同+7.3%←前月同+13.1%)は伸びが鈍化し、EU向け(同▲2.2%←前月同+7.1%)については6ヵ月ぶりに減少となった。米国向け輸出は主力の自動車向け輸出が好調なことに加え、パソコン関連の輸出も増加したことから堅調に推移している。アジア向けについては非鉄金属や鉄鋼などの素材関連品目の他、半導体電子部品の輸出も堅調だった。前月から伸びが鈍化したものの、均してみればそれほどの減速感はない。一方、EU向けは数量ベースでは自動車輸出等が減少していることから前年を下回った。ただし、EU経済は回復が続いていること、為替も円安・ユーロ高が続いていること等を考えれば、EU向け輸出が大きく減少していくことは考えにくい。

10月の輸出数量は比較的大きく減速したが、EU向け輸出の減少が全体を大きく押し下げている。米国向けはむしろ好調であり、アジア向け輸出も大きく減速感が出てきているわけではないことを勘案すれば、輸出の減速は緩やかと判断する。



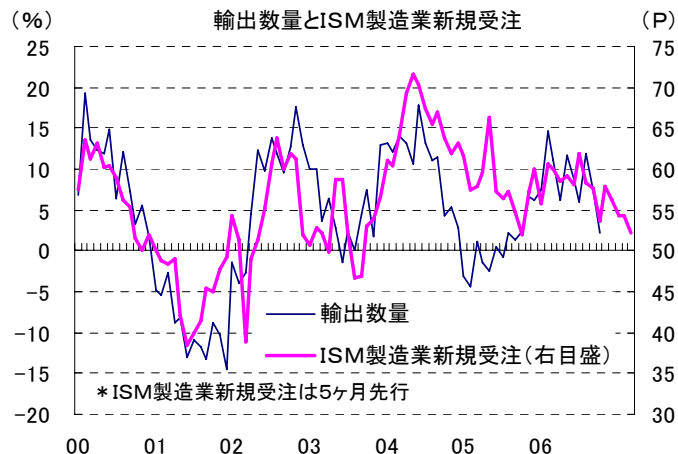
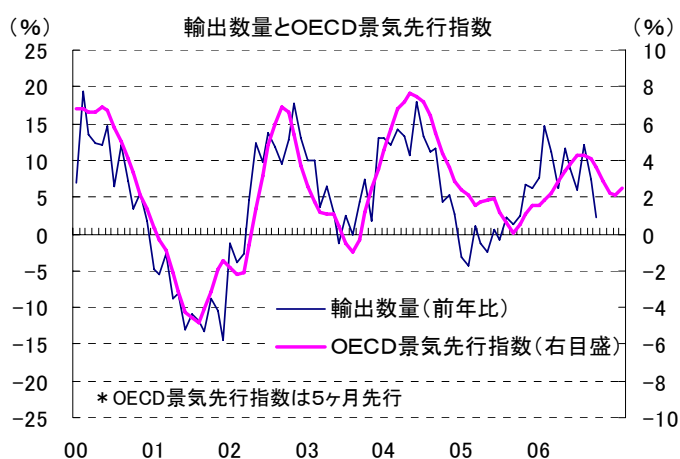
○ 輸出は当面減速方向となるが、先行指標の中には明るい兆しも見られる

米国景気の減速が鮮明になってきていることや輸出の先行指標であるOECD景気先行指数がピークアウトしていること等を踏まえると、輸出の増加ペースの鈍化は避けられない見込みである。ただし、米国景気はソフトランディングできると考えられること、中国における金融引き締め策も景気を失速させるには至らないことから、輸出は先行きも底堅く推移すると考えられる。さらにはOECD景気先行指数においても、足元では持ち直しの兆しが見えている。これまでの先行期間を考慮すれば、早ければ年明けにも減速に歯止めがかかってくる可能性もある。

リスク要因としては米国のクリスマス商戦の動向が挙げられる。足元までの米国経済の動向を概観すると、

成長率は鈍化しているものの、減速は主に住宅部門であって個人消費への影響は限定的である。原油価格の下落などは米国の個人消費にプラス方向に働き、米国クリスマス商戦は堅調に推移することを見込んでいるが、これが冴えない場合には輸出の減速傾向が強まる可能性があることには留意が必要である。

先行きの貿易収支を展望すれば、目先は一進一退となることを見込む。米国景気の減速に伴って輸出金額の増加テンポも鈍化してくるとみられるが、輸入金額を押し上げていた原油価格については足元で落ち着いてきていることから、原油価格による前年対比でみた輸入金額への押し上げ寄与は今後徐々に剥落していく公算が大きいと考えられる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。